

《資料紹介》

イングランドの保育従事者の資格 (EYT, EYE/Level 3)について

埋 橋 玲 子

はじめに

就学前教育・保育の質に重大な影響を与えるのが直接子どもに関わる「保育者」である。日本では2015年度からの新制度の下、幼保連携型認定こども園においては乳幼児の教育及び保育にあたる中心職員は「保育教諭」であることが求められるようになった。「保育教諭」とは幼稚園教諭免許および保育士資格の両方を有する者である。この流れの中で、養成課程においては幼稚園免許と保育士資格双方を取得すること、および一方のみ有する既卒生等に対しては特例措置¹⁾が取られるという動きが進行中である。

このように日本においてはすでに幼稚園教諭免許・保育士資格という、有資格の保育者として求められる場合の二種類の要件がそれぞれの法的な根拠をもってすでに確立しており、その延長線上に保育教諭という要件が成立している。なお、保育士については試験による資格取得も可能であり、受験資格は高校以上の一定の学歴(取得単位数)または中学卒業後の実務経験を一定以上有している場合に与えられる。幼稚園教諭免許については10年に一度、免許更新のための研修が義務付けられているが、保育士には相当する要件はない。また、幼稚園免許には取得している学位に応じて専修(修士)、一種(学士)、二種の3段階があるが保育士には段階がない。

さて、イングランドにおいては第2次世界大戦後1990年代に至るまで、就学前の乳幼児に対する教育、養護は政治的な課題として取り上げられることがほとんどなかったといっていよい。変化の兆しが現れたのは1990年前後のことであったが、劇的な変化が起こったのは、1997年に保守党から労働党に18年ぶりの政権交代が起こり、その後3期にわたる同政権下のことであった。ブレア(1997～2007)／ブラウン(2007～2010)首相は就学前の乳幼児に対する施策を前面に押し出し、多額の財源をつぎ込んで、保育革命ともいえる多くの改革を行った。

その改革の一つが保育従事者の資格の整備と高度化であり、基礎資格の要件を明示しキャリア・ラダーの整備を行ったことである。1990年代までの保育政策がほとんど不在であった時期には、多様な資格が多様な機関等から発行されていたというのが実情であった。それらが整理された改革の後、保育現場では研修機会を利用してキャリア・ラダーを上昇していくスタッフの活力により保育が活性化する様子がうかがえる(埋橋, 2014)。2010年に政権は連合政権に交代し、前労働党政権の保育政策の見直しと改編が行われたが、基本的な枠組みは踏襲されている。保育従事者の「専門性」の重視については変わるところはない。

翻って日本の保育従事者の状況を見ると、前述したように有資格者になるための制度は整備

されているが、その内実は定かではない。習得すべき知識・スキルは大綱的に示され、養成校における必須科目として設定されているが、各校の授業内容は多種多様である。保育従事者、あるいは専門職として具体的な職務内容について一定の合意の成立ができているかは不明である。

2014年、イングランドにおいて連合政権は新たに EYT (Early Years Teachers 幼年教師) および EYE / レベル 3 (Early Years Educator 幼年教育士) について定めた。前者は学位をもち教員養成課程を経て EYFS の枠組みのもとに就学前の乳幼児の教育とケアに携わる教師であり、後者は養成課程等を経てレベル 3 の職業資格をもち EYFS³⁾ に基づいて保育業務に携わる者である。いずれも全く新たな資格ではない(後述)。

1. 問題の背景

1) 幼児教育・保育不在の歴史的背景

イングランドにおいては第二次世界大戦後ほぼ50年にわたり、就労する親に代わって乳幼児の監護にあたるという目的での公的保育サービスはほとんど整備されていなかった。ベヴァリッジ・レポートにある「男性稼得者—女性家事従事者」モデルのもとに子どもをもつ母親の就労は想定されなかったからである。公的保育サービスは「必要のある²⁾」子どもに対して与えられるものであり、社会的スティグマを帯びていた。他方で就学前教育といえば、義務教育以降の教育の整備が優先され、財源不足から普及に至らなかった。そのため、母親たちの自主保育活動としてのプレイグループ運動、自宅で子どもを預かるチャイルド minder が主たる保育手段として発達したのである。

このような状況にあつて幼児教育あるいは保育にかかわる免許・資格は日本のようには発達しなかった。組織化されたプレイグループやチャイルド minder 関係者はそれぞれに研修制度を設け、その他 NNEB⁴⁾ やシティ・ギルドというような民間の資格団体が保育従事者を養成していた。

就学準備のための教育の必要性は認められてはおり、制度的には公立学校は子どもが5歳の誕生日を迎える学期の最初の日から入れる「レセプション・クラス」がある。自治体によっては財政的に状況が許せばそれ以前にも「ナーサリー・クラス」を設けたり、あるいは困窮地域には独立した「ナーサリー・スクール」を設置したりするなど、公的財源のもとに就学前教育の場はないわけではなかった。だがそこで指導に当たる教師は小学校教師であり、助手として NNEB⁵⁾ が配属されるというものであった。

2) 労働力の近代化

その状況に変化が現れたのが前述のとおり1990年代前後であり、さらに1997年以降の労働政権のもとに保育従事者の資格の整備と高度化が実行された。ただし、この資格の整備は保育分野に限られたものではなく、イギリス全体の労働力の近代化をめざす政策の一環であった。

1980年代、民間の資格団体が「乱立」し、それぞれの資格の相対的な価値が判別しづらく透明性がない状況は労働力の流動性を妨げ、労働市場の近代化を阻んでいた。そのような認識の

The diagram illustrates the Ofqual National Qualifications Framework (NQF) and Credit Framework Levels. It is a circular structure with concentric rings representing different levels of qualifications.

Outer Ring (Qualifications):

- D-G GCSE
- A*-C
- A-Level
- Certificate of higher education
- Framework for Higher Education Qualifications
- Bachelor degrees
- Master degrees & postgraduate certificates
- Doctorates

Inner Ring (Qualifications and Credit Framework Levels):

- The Diploma
- Apprenticeships

Central Ring (National Qualifications Framework/Qualifications and Credit Framework Levels):

- Level 1: ENTRY
- Level 2: Diploma
- Level 3: Certificate
- Level 4: Award
- Level 5: 13 - 36 credits
- Level 6: 37+ credits
- Level 7
- Level 8

Ofqual Logo: Located at the bottom center of the diagram.

出典：www.gov.uk

2010年に政権は連合政権に交代し、前労働党政権の保育政策の見直しと改編が行われ、保育従事者の資格等についても見直しが行われた。キャシー・ナットブラウンは調査報告書⁷⁾を提出し、保育従事者の資格につき提案を行った(表1、図2)。従来の基本的な枠組みが維持され、新たに「教師」の位置づけがうまれたことが重要な進展である。

表1 保育従事者の資格等一覧についてのナットブラウン提案

職位	レベル	EYFS*	職務内容
助手・訓練生	未資格, レベル2, レベル3に向けての訓練中	×	監督下での業務。現場での訓練中。
見習い生	未資格, レベル2, レベル3に向けての見習い中	×	監督下での業務。現場での訓練中。
保育資格者	レベル3	○	一つの保育室内で責任のある業務につく。子どもや家族と直接にかかわり, 小規模なところでは管理者になれる。
保育上級資格者	レベル4以上	○	複数の保育室で責任を負う。子どもや家族と直接にかかわり, 管理者になれる。
EYP	EYPS 及び学位	○	施設全体の責任を負い, 子どもや家族と直接にかかわり, 管理者になれる。
EYT	学位及びQTS	○	施設全体での教育に関する指導的立場をとり, 子どもや家族と直接にかかわり, 低位の資格のスタッフを支援する。

* EYFS の示す配置人数としてカウントされるかどうかを示す。

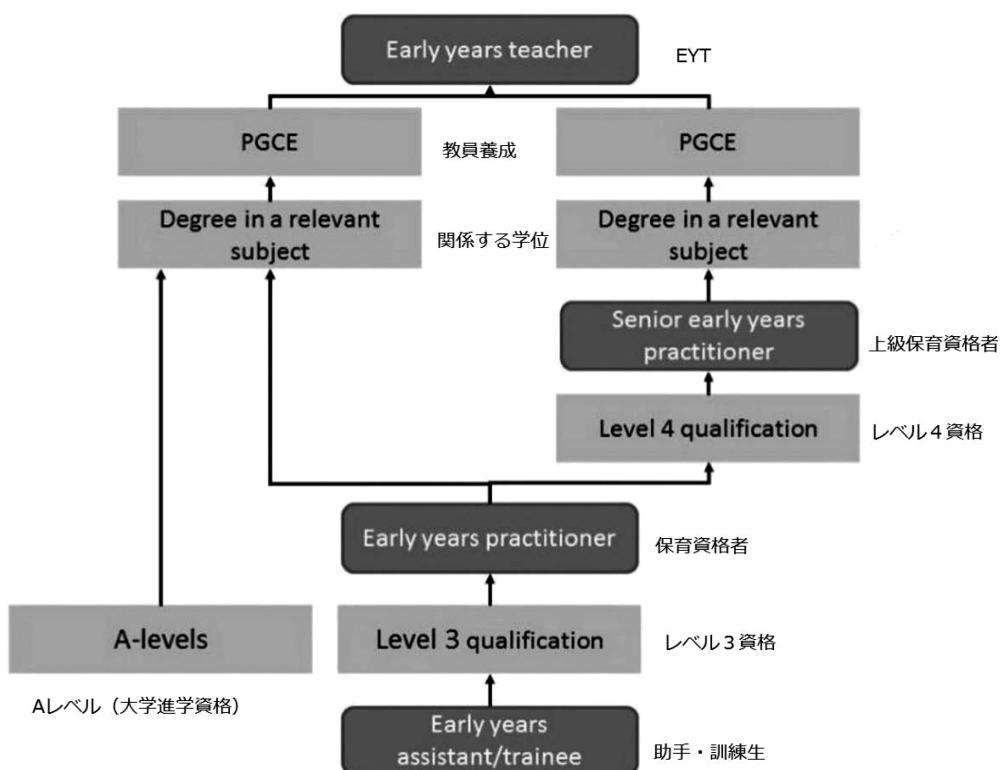


図2 EYE から YET へのキャリア・ラダーの例示(ナットブラウン・レビューより)

2. YET(幼年教師)について

1) 概 要

保育従事者で学位をもった者に対しては、EYPS(Early Years Professional Status)という職位が既に存在しており、EYTはその置き換えである。EYTは「教師」であり、2013年9月より「教師」としての養成(early years initial teacher training)が開始された。このことの意義は、学位をもって0～5歳児を教育する立場のものに対して、「教師」という地位が認められたということにあり、EYPSより大きく一歩前進、という表現が許されるであろう。従来、「教師」とは5歳以上を教育する者に限られていたのである。

「教師」は該当する分野の学位をもち、教師となるトレーニング(IIT=initial teacher training)を受けたものに対し与えられる地位で、学位取得後1年のフルタイムまたは2年のパートタイムの養成課程を終えたものに与えられる。この養成課程を修了することで、QTS(qualified teacher status)と呼ばれる、公立のプライマリー・スクール、セカンダリー・スクール、スペシャル・スクールで教職に就くことができる地位が与えられる。EYTはQTSと同等の地位を得て、2014年9月からは新たにEYTのITTを促進する制度ができた⁸⁾。

2) EYTに求められる職責

以下、2013年6月に発行され9月より実施された『教師標準(就学前) *Teachers' Standards (Early Years)*』本文の全訳を示す。

前 文

EYTは乳幼児の教育と養護を第一に行う。EYTは専門的な実践と運営に関して可能な限り高い水準に到達することに責任を負う。EYTS(Early Years Teacher Status)は教育と養護について指導的立場をとり、EYFSで求められる基準を満たしている大学卒業者に対して与えられる。

EYTは真摯かつ誠実に行動しなくてはならない。YETは乳幼児期の発達について堅固な知識を持ち、知識と技術を常に最新のものに保ち、自身に対して批判的である。幼年教師はEYFSからキィ・ステージ⁹⁾1・2へと続くカリキュラムの連続性を認識している。

EYTは以下のことを行わなくてはならない：

1. すべての子どもに対し高い期待をもち、励まし、やる気にし、挑戦させる。

- 1.1 子どもが落ち着き、学び、発達を遂げるような、安全で望ましい刺激に富む環境を確立し、維持する。
- 1.2 それぞれの背景、能力、性向にかかわらず、どの子どもも自分の力を試し、伸ばしていけるような目標を設定する。
- 1.3 子どもに対し、前向きな価値観、態度、行動を示し、モデルとなる。

2. 子どもに望ましい進歩と成果をもたらす。

- 2.1 子どもの進歩，達成度，成果について説明ができる。
- 2.2 乳幼児がどのように学び，発達するかについての知識と理解を実行に移す。
- 2.3 愛着理論とその重要性および確かな愛着をどのようにして育むかについて理解している。
- 2.4 持続的な思考の共有を含み，子どもの学びと思考を発達・伸長させるための効果的な方略を導き，モデルとなる。
- 2.5 誕生から5歳までの子どもとうまくコミュニケーションが取れ，話を聞き適切に対応する。
- 2.6 集団での学びを通して子どもに自信をもたせ，社会性のあるコミュニケーション技能を発達させる。
- 2.7 両親等が重大な影響を与えることを理解し，連携のもとに子どものウエル・ビーイング，学び，発達を助ける。

3. 乳幼児期の学びと EYFS を理解し，実行する。

- 3.1 乳幼児の発達，およびそれらをどのようにして就学後の学びと発達にうまく導くかについて堅固な知識をもっている。
- 3.2 どのようにして子どもの経験を広げ高い目標をもたせるかについて理解しており，実行している。
- 3.3 EYFS の学びと発達の領域について批判的に理解し，キイ・ステージ1・2の目標やカリキュラム，指導法に至るように，教育的な連続性をもたせている。
- 3.4 初期の読みの指導にあたっては体系的・総合的な音声学を明確に理解していることが示せる。
- 3.5 初期の算数の指導に当たって，適切な教育方法を明確に理解していることを示せる。

4. すべての子どものニーズに応じて教育と養護の立案をする。

- 4.1 子どもの発達と学びを観察・評価し，次の段階の計画に役立てる。
- 4.2 子どもの発達段階，置かれた環境，興味に応じてバランスの取れた柔軟な活動と教育活動を計画する。
- 4.3 進んで学ぼうとする気持ちを育て保護者等と連携して子どもの知的好奇心をかきたてる。
- 4.4 子どもの年齢と能力にふさわしい集団活動を組織するにあたり多様な教育的なやり方を用いる。
- 4.5 継続的に保育の質が向上するように指導や教育プログラムの効果について省察する。

5. すべての子どもの長所とニーズに応じて教育と養護を実践する。

- 5.1 子どもの学びと発達を妨げる要因が何であり，それらの最適な対処方法について十分

理解している。

- 5.2 乳幼児の身体的、情緒的、社会的、知的発達とコミュニケーションの必要性を認識しており、一人ひとりの発達段階に応じて教育と養護を行う。
 - 5.3 特別な教育的配慮を要する子どもや障がいのある子どもを含み、すべての子どものニーズを的確に把握し、個別的な援助を行い、それらを評価する。
 - 5.4 子どもにより変化は多様であることを踏まえて援助を行う。
 - 5.5 子どもの必要に応じて、保護者等と他の専門家の連携のもとに時宜に合った更なる援助を行う。
6. 評価を正確に行い、結果を活用する。
- 6.1 法定評価を含め、EYFS の枠組みに沿って評価活動を主導する。
 - 6.2 子どもの日々の教育・保育の中で評価を行い、効果的に保護者等や専門家と協働する。
 - 6.3 子どもの目標に向かって進歩が現れるよう定期的に保護者等へ結果を知らせる。
7. 子どもを保護し福祉を向上させ安心して学べる環境を与える。
- 7.1 子どもの健康と安全、児童保護および福祉増進についての法令・ガイドラインを順守する。
 - 7.2 安全な環境を確保・維持し、子どもの健康と安全を増進させる。
 - 7.3 児童保護の方針と手続きを熟知し、子どもが虐待の危険にさらされていることを感知して保護する手段を知っている。
8. 専門的な責任を果たす。
- 8.1 機会均等と差別反対の実践を推進する。
 - 8.2 職場により広い視野と理念をもたらすことに貢献する。
 - 8.3 同僚間、保護者等および他の専門家と協働する職場文化の醸成に指導的な立場に関わる。
 - 8.4 効果的な教育と養護を実行し、モデルとなり、EYE を含め他の職員を支援し、主導する。
 - 8.5 自身あるいは同僚の専門性向上を通して実践を主導する責任を取る。
 - 8.6 当該保育事業の実績について省察・評価し、実践の質の向上を図る。
 - 8.7 複合施設としてのチームワークの重要性を理解し、貢献する。

3. EYE/レベル3について

1) 概要

EYE/レベル3は様々な資格認証団体によって認証される「資格 qualification」である。この「資格」はアカデミックなものではなく、「地位 status」である EYT とは種別の違うものである。従来、保育従事者資格でレベル3と認証されていた資格要件に加え、GCSE の英語と

数学の成績が「C」以上であることが求められるようになった。

2) EYE／レベル3の資格要件

以下、2013年6月に発行され9月より実施された、『EYE／レベル3：資格基準 Early Years Educator (Level 3): Qualifications Criteria』より本文の全訳を示す。

内 容

この基準は質の高いEYE資格として求められる最低の要件を示す。

EYFSが法的に定める子どもと従事者の比率に関して、従事者とみなされるのはレベル3の有資格者であり、NCTL(全国教育・指導者養成機構 National College for Teaching & Leadership)がその詳細な内容を定める。

NCTLは保育従事者の職務を明示する形で詳細な規定を示す。

EYFSの法的な枠組み

EYFSは子どもがよい学びと発達を遂げ、健康で安全が保たれることを確かなものとするようにすべての保育事業者が満たさなくてはならない基準である。そのことは子どもの“就学準備”を確かなもの視する教えと学びを促進し、学校とその後の生涯にわたる良い未来の進歩の基礎となるような、広範囲の知識と技能を与えるものである。

資格の内容

EYFSという誕生から5歳までの乳幼児を支援する資格を有するとみなされる、EYEに求められる最低の知識と理解、技能について示す：

セクション i： 資格と検定の内容の要約

セクション ii： EYE／レベル3に求められる最低の資格要件

なお、本文書中で「子ども」というのは、誕生から5歳までの乳幼児を包括的に示す言葉である。

セクション i： 資格と検定の内容の要約

A：(セクション ii と重複するため省略)

B：EYE／レベル3の資格は、その検定等が Ofqual¹⁰⁾ の定める全国基準を満たしていなくてはならない。全国基準は資格・クレジット体系あるいは全国職業体系に関連して法で規制されている。

セクション ii : EYE/レベル 3 に求められる最低の資格要件

1. 子どもの教育と発達を支援・促進する

1.1 誕生から 5 歳までの子どもの発達の道筋を理解し、5 歳から 7 歳までの発達を見通す。

子どもの発達の道筋とは以下のものを含む:

- 認知的
- 話し言葉, 言語, コミュニケーション
- リテラシーとニューメラシー
- 身体的
- 情緒的
- 社会的
- 神経学的および脳科学的

1.2 愛着の重要性とどうすれば効果的に促進できるかを理解する。

1.3 子どもがどのように学び、発達するかについての背景となる理論と思想的なアプローチ, それらが実践に与える影響について広く理解する。

1.4 個別の発達過程と環境によって子どもの学びと発達がどのように影響を受けているかについて分析し, 説明をする。

1.5 多様性, 公平性, 包摂を促進し文化的な背景や家庭環境を反映させることの重要性を理解する。

1.6 子どもの以下の全体的発達の重要性を理解する:

- 話し言葉, 言語, コミュニケーション
- 人格的, 社会的, 情緒的発達
- 身体的発達

1.7 読みの指導に当たって体系的・総合的の音声学, 及び幼児期の読み書きと算数の発達について様々な方法を用いることを理解する。

1.8 生活の中で起こる移行や特別な出来事について起こりうる結果を理解し, どのように準備し, 子どもを支援するかについて理解する:

- 入学
- 保育を受け始めたり, 転園したりする。
- きょうだいの誕生
- 転居
- 家庭外で暮らす。
- 家族の崩壊
- 大切な人を失う。
- クラスや担当者が変わる。

1.9 現在の教育カリキュラムについて理解する。

1.10 機会均等と反差別的実践を促進する。

2. 子どもが就学に向けて成長し準備を行えるような効果的な養護，教えと学びを計画し実行する

- 2.1 活動，ねらいのある遊びの機会，現行の幼児教育カリキュラムが求める学びと発達の領域を含んだ教育的活動を計画し，主導する。これには以下のことが含まれる：
- コミュニケーションと言語(例えば語彙，言語構造，対話など)
 - 身体的発達
 - 人格的，社会的，情緒的発達
 - リテラシー
 - 算数
 - 世の中の理解
 - 表現活動(芸術とデザイン)
- 2.2 発達過程，個人的なニーズと子どもの置かれた状況を反映させた計画を立てる。
- 2.3 年齢，発達過程，個別あるいはグループ別のニーズにふさわしい学びの経験，環境，機会を与える。
- 2.4 子どもの参加を促し，おとなが主導する活動と子どもが主体的に行う活動のバランスをとる。
- 2.5 持続的に思考を共有することなども通し，子どもの学びと思考を拡大・伸長させる効果的な方略をとる。
- 2.6 子どもの話し言葉，言語，コミュニケーションを支援し，促進する。
- 2.7 子どもの集団的な学びと社会化を支援する。
- 2.8 子どもには必要に応じて特別な支援が必要であることを理解する。
- 2.9 特別なニーズに応じて，適切に保護者等あるいは他の専門家と連携し，活動を計画し実行する。

3. 正確で生産的なアセスメントを行う

- 3.1 現行の幼児教育カリキュラムに沿ってどのようにアセスメントを行うかを理解する。
- 3.2 観察によるアセスメントを実行し正確に記録する。
- 3.3 子どもの個別のニーズ，興味，発達過程を見定める。
- 3.4 形成的・総括的アセスメントを活用し，子どもの進歩をたどり，次の段階の計画を立て，学びの機会を形作る。
- 3.5 子どもの担当者，同僚，保護者等と子どもの進歩について話し合い，学びの次の段階について計画を立てる。

4. 効果的で状況を踏まえた実践を展開する

- 4.1 英語で話したり書いたりすることに不自由しない。
- 4.2 自身の技能と実践の専門性を向上させることの重要性について説明する。
- 4.3 継続的な専門性の向上と反省的实践に努め，自身の技能，実践，学科の知識(例：英語，

数学, 歴史, 外国語)を進歩させる。

5. 子どもの健康, 安全, 福祉を保障し増進させる

- 5.1 法律での規定と手引きに記された健康と安全, 安心, 秘密保持, 子どもの福祉の保障と増進についての知識がある。
- 5.2 健康と安全, 安心, 秘密保持, 子どもの福祉の保障と増進とは何かがわかり, 実行する。
- 5.3 年齢, 発達過程, ニーズにふさわしい身体的な養護を計画し実行する。
- 5.4 乳幼児にとって健康とウエル・ビーイングがなぜ重要であるかを理解し健康な生活習慣を推進する。
- 5.5 事故や緊急事態にどのように対応するかを理解する。
- 5.6 感染の予防と管理についての技能と知識を示す。感染の予防と管理とは以下のようなものである:
 - 手洗い
 - 食品の衛生
 - 出血の安全な処理
 - ごみの安全な処理
 - 個人的な予防手段の適切な使用
 - 子どもによくある病気と予防接種についての知識
 - 感染症の出席停止期間
- 5.7 方針と手続きが一貫した危機の点検と管理を実行する。
- 5.8 児童保護を含み安全の保障の方針と手続きを理解し, いつ子どもが虐待の危険やリスクにさらされるかを認識し, 子どもを保護するための対応について知っている。
虐待とは以下のようなものである:
 - 家庭内
 - 放置
 - 身体的
 - 情緒的
 - 性的
- 5.9 正確でまとまりのある記録や報告の管理を行い, 必要なときにのみ共有を行い, すべての子どものニーズについて確定する。
記録と報告とは以下のようなものである:
 - 医療的対処
 - 食餌指導
 - 指導計画
 - 観察とアセスメント
 - 健康, 安全, 安心

- 事故
- 出席管理

6. 担当者や同僚、保護者等、他の専門家との連携を行う

- 6.1 乳幼児のニーズを満たし、成長が見られるように同僚や他の専門家と協働する。
- 6.2 保護者等に対し、子どもの健康、ウエル・ビーイング学びと発達については保護者等の役割が極めて大切であることを理解してもらう。
- 6.3 子どもの遊び、学びと発達に積極的に関わっていくよう、保護者を励ます。

4. 考 察

EYTは教師としてのステイタスを与えられて保育の質の向上のための牽引力を期待され、EYEは英語と数学の基礎学力が求められて保育従事者の力量の底上げが図られている。それぞれに期待される職務の記述からは、EYTはより教育的なかかわりと組織において指導的立場であることが求められ、EYEには養護と教育にわたるより具体的な業務を正確にこなすことが求められていることがわかる。EYPSという前段階を経てEYTという教師のステイタスをもつ職位が生まれ、EYEとは異なる職責をもつことが明快になった。学位保持者の位置が定められたことは、保育職という職種が一定の社会的認知を得たとも解釈できる。

日本の幼稚園教諭免許(幼免)、保育士資格と単純な比較はできないが、強いて図1の体系に入れ込むとすれば、二種幼免はレベル5のディプロマ、一種幼免は4年制大学卒業のレベル6、専修幼免はレベル7である。保育士資格については2年制の短大や専門学校卒業の場合はレベル5のディプロマ、4年制大学卒業の場合はレベル6、高校までの学歴であればレベル3と位置づけられる。保育教諭についていえば学位がない場合レベル5であり、学位があればレベル6あるいはレベル7である。

職位のレベルを上げていくことは、図2に見るように簡単ではないが可能である。社会人学生として学び続けレベルを上げていくことはキャリア・ラダーを登っていくことであり、責任ある立場に移れ、待遇も向上することである。保育職の場合、他の職域と比較すると給与水準は低いという難点はあるが、向上心を持つ者にとっては合理的なシステムである。

現実的に見ると学位の壁は高い。現在YEFSを実行する(補助金を受ける)保育機関では従来のEYFS、今後はEYTを雇用することを求めているが、コストの点で容易ではない。幼児教育・保育の質が子どもに与える影響は大きく、質の高いプログラムが子どもに良い影響を与えることは数多くの研究で明らかになっている。幼児教育・保育の質は保育者の質に大きく依存しており、保育者の専門性を高めることが重要な課題となる。

イングランドでは1980年代後半より労働力の近代化を学校教育改革も含め推し進めてきた。政権交代により振れ幅は見せつつも、労働市場での労働力の流通性を高めるために一貫して個人の資質・専門性の可視化に努めてきた。保育職もその流れにあり、個人の能力と可能な職務内容はジョブ・タイトルに明確に示される。各保育事業者はYEFSの規定に従って複数の種類のジョブ・タイトル保持者(未保持者も含め)を雇用し、コストをにらみながらサービスの質

を高めていくことになる。

現在、YEFSを実行する保育機関等では、レベル3以上の資格保持者を雇用することが義務付けられている。これは1990年代前半の幼児教育・保育従事者の資格が、いわば「なんでもあり」の状態であったことを顧みれば、少なからずの年月を要したとはいえ、幼児教育・保育が社会的に認知され、従事者がそれなりの地位を与えられるという、着実な前進を示したことを意味している。

結 び

保育従事者の資格についてみると、日本の幼稚園教諭免許・保育士資格はその資格の要件と職務内容、職責との結びつきが明確ではない。このことは日本の幼稚園や保育所の施設長に特に求められる要件がないことにも表れている。保育の質の向上には保育者が大きな要因となるのは既知のことではあるが、その制度的裏付けが必要である。幼児教育・保育の場に職階を設け、その裏付けとなる要件を定めていくことが保育者の専門性の向上の意欲を高め、保育の質の向上につながるが、イングランドにおける保育従事者の資格要件の推移から得られる示唆である。

注

- 1) 幼稚園教諭免許状を有する者における保育士資格取得特例(厚生労働省)及び幼稚園教諭の普通免許状に係る所要資格の期限付き特例(文部科学省)。
- 2) 困窮状態, 社会的不利, 障がい。
- 3) =Early Years Foundation Stage. 就学前のナショナルカリキュラム。
- 4) =National Nursery Examination Board.
- 5) 上記認証機関名がそのまま資格名として用いられていた。
- 6) =General Certificate of Secondary Education. 中等教育一般証明書。義務教育終了段階で科目ごとに試験が行われ、成績に基づいて終了証が発行される。A～C段階が合格。
- 7) Nutbrown, C. (2012) *Foundations for Quality: The independent review of early education and childcare qualifications Final Report*
- 8) National Colleges for Teaching & Leadership (2013) Early years initial teacher training: September 2014
- 9) 義務教育のナショナル・カリキュラムの段階。
- 10) =Office of Qualifications and Examinations and Examinations Regulation.